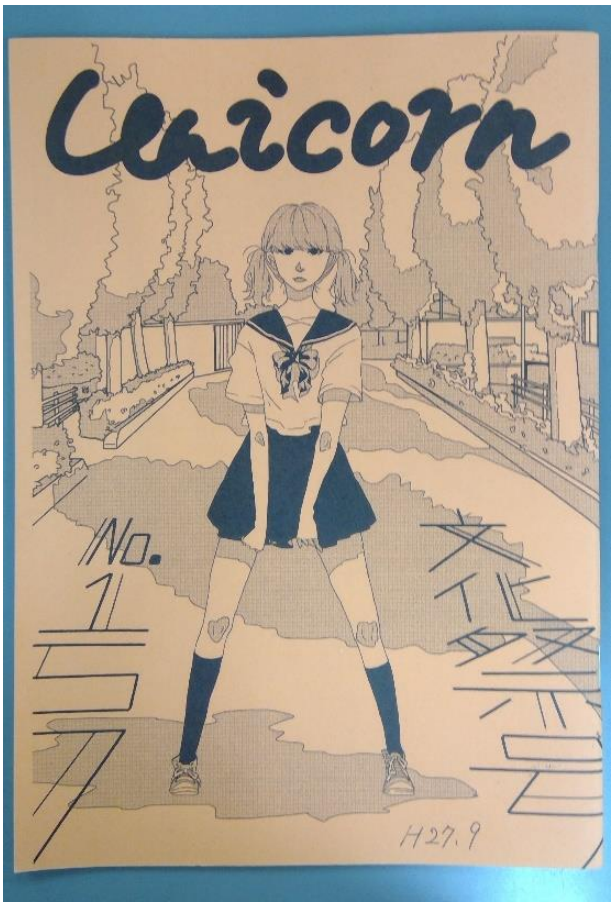
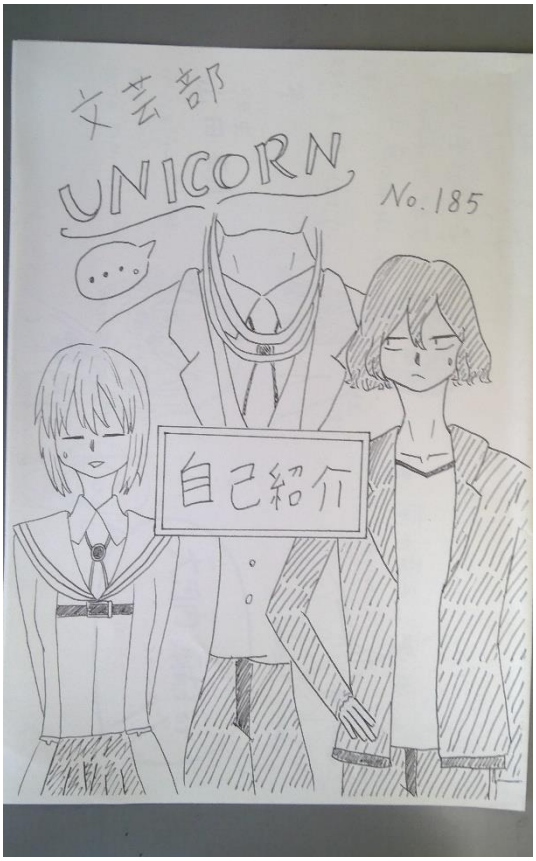
文芸部

部誌紹介；ユニコーン



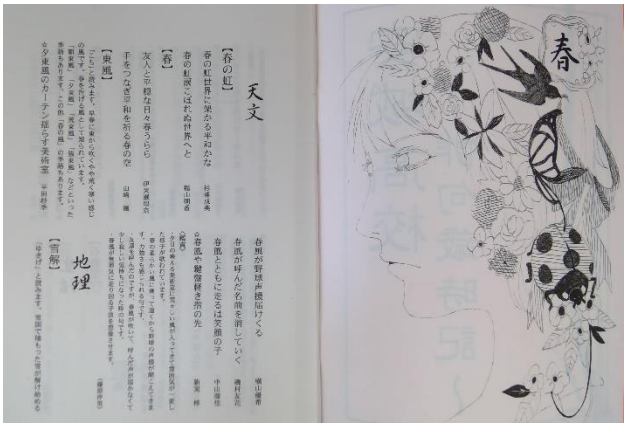


安城高校文芸部は、文芸誌「ユニコーン」を作っています。「ユニコーン」の創刊は、１９８６年（昭和６１年）で、令和２年の５月で１８５号となります。活動は、小説・詩・短歌・俳句の創作やイラストを描いています。特に８年前からは、俳句づくりに力をいれていて、先輩たちが全国俳句大会で多数入選を果たしています。時々、句会をしてみんなで楽しんでいますよ。

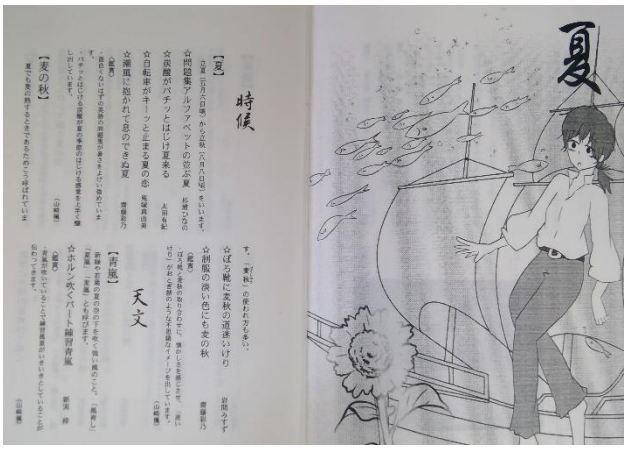
先輩たちの作ってくれた「安城高校俳句歳時記」を紹介します。

安城高校俳句歳時記

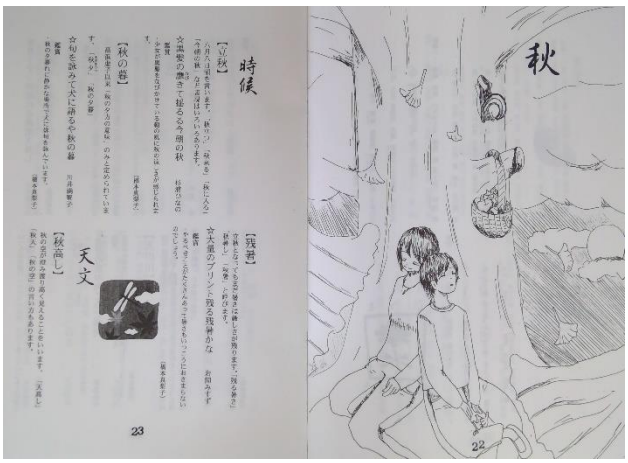
春



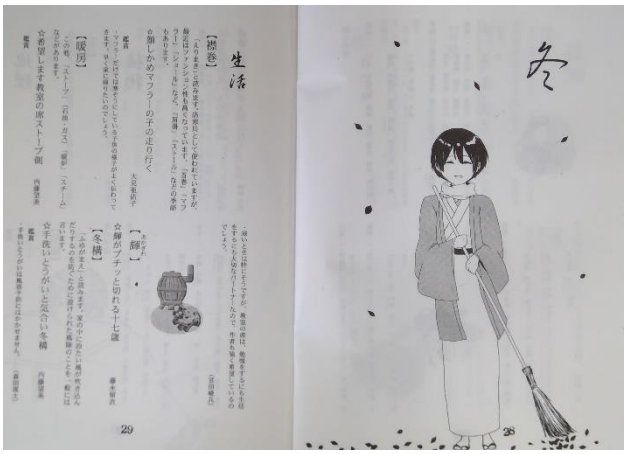
夏



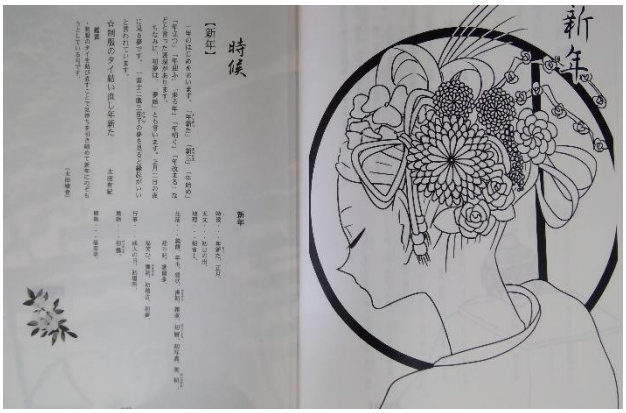
秋



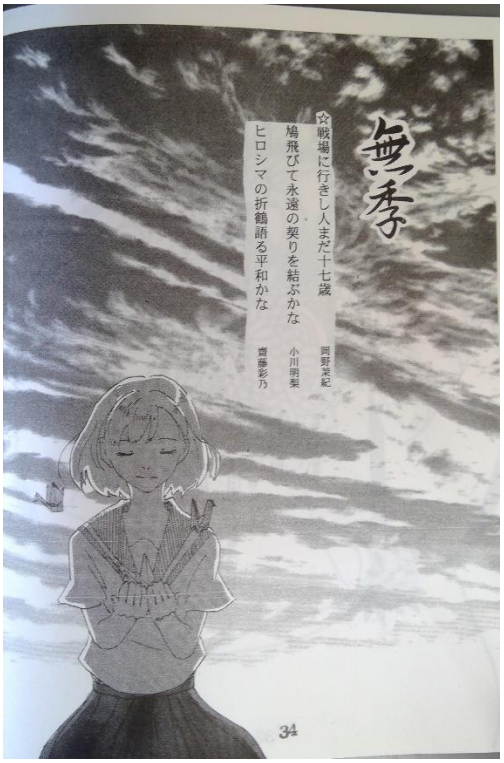
冬



新年



無季



☆令和元年度　2019年

文芸部　大会結果　☆

〇第３４回国民文化祭・にいがた 2019、第１９回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会

「詩（ことば）フェスティバル」

入選（12 名）

山田奈月（やまだなつき）　熱がさめ君が遠のく夏の果て
深津直哉（ふかつなおや）　桜咲きさまざまな恋交差する
石原櫻子（いしはらさくらこ）　空見上げ夢をさがして夏の星
岩井竣亮（いわいしゅんすけ）　夏の空まだ見ぬ明日を写しだせ
谷口七海（たにぐちななみ）　昼寝中弟の来て目が覚める
有賀美幸（ありがみゆき）　和太鼓の音で始まる夏休み
鳥居ひな子（とりい）　カラフルな蜜山盛りにかき氷
成瀬琴美（なるせことみ）　葱坊主とつて集めた幼き日
鴨下萌花（かもしたもえか）　薄墨の香りを抱く桜桃忌
加藤真巳（かとうまみ）　思ひ出は線香花火と共に散り
神谷汐香（かみやきよか）　蜘蛛の糸友との絆絡み合ふ
鳥居大暉（とりいだいき）　どこへ行く海峡越えし白鳥よ

特選（2 名）

鴨下萌花（かもしたもえか）　炎天にさらされたりし学徒たち
有賀美幸（ありがみゆき）　大地踏み蛍の道に導かれ

〇第３２回全国健康福祉祭和歌山大会　ねんりんぴっく紀の国わかやま２０１９

優秀賞（ジュニアの部・高校生）（2 名）

鳥居ひな子（とりい）　ふはふはと泳ぐ海月に癒されぬ
加藤真巳（かとうまみ）　歓声の中で滅びる流れ星

入選（ジュニアの部・高校生）（4 名）

石原櫻子（いしはらさくらこ）　下駄の音花火の音が響く夜
岩井竣亮（いわいしゅんすけ）　もう二度とキミを見られぬ夏の星
高沢光太朗（たかざわこうたろう）　蛍烏賊海に宇宙を作り出す
加藤真巳（かとうまみ）　暑さ逃げ日蔭で捲る文庫本

〇第２２回神奈川大学全国高校生俳句大賞

三句入選（2 名）

加藤真巳　待合わせマフラーをまた巻き直し
マフラーに顔埋めては悩む恋
北風に口笛乗せて帰る道
角谷日菜子　ドンドンと花火の音や道遠く
金魚すくひ後先のこと考へず
団栗をつなげてかけるネックレス

一句入選（５名）

木村展大　サングラス外してみれば双子の子
高沢光太朗　熱帯魚異国の空気醸しだす
鳥居大暉　雪まみれローカル線の駅の上
石川瑞穂　笑いつつ町を見守る雪だるま
角谷日菜子　向日葵が下向く我は前を向く

〇第３０回伊藤園お～いお茶新俳句大賞

佳作　大西紘椰　英単語くわえてとんだ燕かな
佳作　加藤真巳　しんしんと母の背揺れて林檎切る

〇令和元年度（第７３回）芭蕉祭

入選　平岩洋一　壮大な積乱雲と安土城
入選　石川瑞穂　手をあてて涙を隠す夏帽子
入選　鴨下萌花　夕立に追はれ駆け行く運動靴
入選　加藤真巳　蒲公英をつなげてつなぐ出会ひかな

〇俳人協会第５８回全国俳句大会

入選　高沢光太朗　甲虫我頂点と角上げて
佳作　三島彰祐　踏み出せば気づけとばかり蜘蛛の糸
佳作　神谷汐香　凍て空に心遅れて朝支度

〇第３１回市民文芸まつり　（安城市主催）

入選　清水庸平　梅雨明けて変はらぬ夜を過ごしけり
入選　石原櫻子　夏の雨流してしまへ恋心
入選　有賀美幸　落葉舞ふ終りを告げる時計かな
入選　加藤真巳　履き慣れぬローファー響く春の道
入選　鳥居大暉　桜散る雰囲気任せの恋が散る